

## 第 86 回群馬実技セミナー開催報告

会期：2019年5月25日（土）13：00～17：00

会場：桐生メディカルセンター3階 桐生市医師会立桐生准看護学校

定員：30名

主催：NPO 法人口から食べる幸せを守る会®（KTSM）

共催：桐生地区口腔ケア研究会

後援：株式会社クリニコ・日清オイリオグループ株式会社・渡辺商事株式会社・株式会社大塚製薬工場

＜敬称略＞

開催目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。</li> <li>➢ 安全で効率的な口腔ケアを実施することができる。</li> <li>➢ ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。</li> <li>➢ 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することができる。</li> <li>➢ グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、自施設においての実施に繋げることができる。</li> </ul>
------	---

### KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧

＜敬称略＞

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
金 志純	社会福祉法人 鶴風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
山下 ゆかり	医療法人社団 永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
大谷 愛子	仙川の杜デンタルクリニック	歯科医師 KTSM 実技認定者
劔持 君代	公益社団法人 群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
古山 梨佐	医療法人 明理会 イムス富士見総合病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者

### ～セミナーサポート～

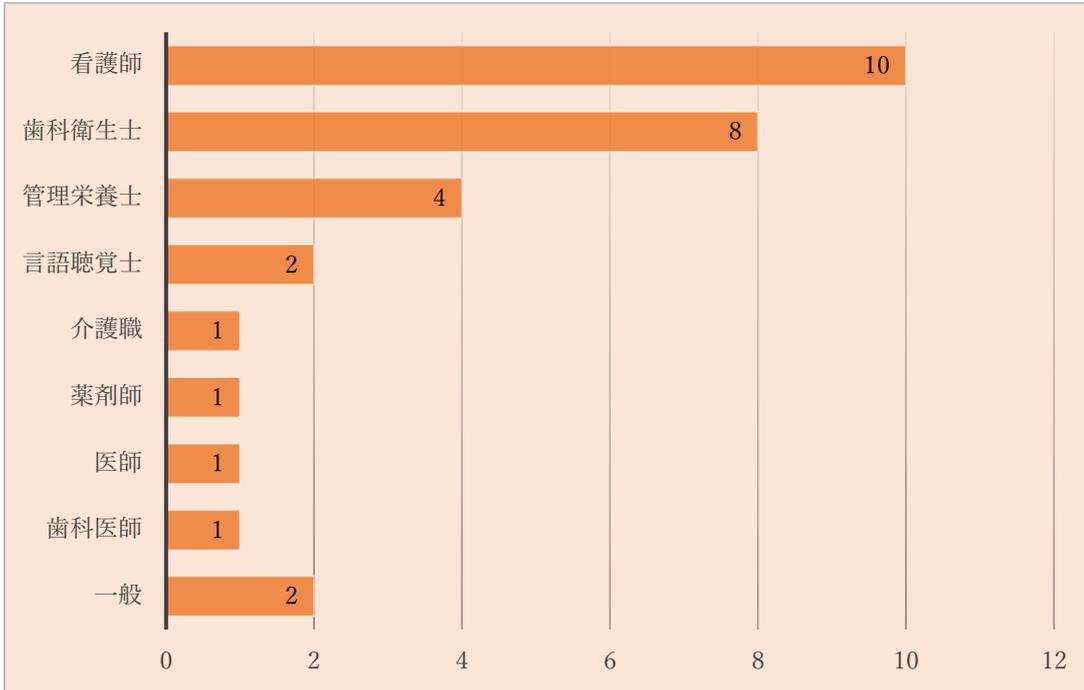
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小林 司	小林歯科クリニック	歯科医師
塩崎 泰雄	塩崎歯科	歯科医師
原 貴美子	群馬県歯科衛生士会	歯科衛生士

## アンケート集計結果

アンケート集計：30名の回答 回収率 100%

Q1.あなたの職種と勤務先の都道府県について、ご記入ください。

### 【職種別人数】



【勤務先】群馬県内より 30名の参加

Q2.KTSM 実技セミナーへの参加回数と参加理由をご記入ください。

【参加回数】30名全員 1回目

### 【参加理由】

自分の手技に自信がなかったことと、周りのスタッフへの教育のために、正しい技術を身につけたかった。

知人より、このセミナー開催について聞いた。小山先生のご活躍をテレビや新聞で拝見しており、是非参加してみたかったため。口腔ケア研究会での小山先生の講演を聞き、とても興味関心ある内容であったため。

普段の食事介助に不安と疑問があった。

KT チャートを元にどの様にアプローチを行うのかをしりたかった。

食事介助の仕方を、正しいやり方で、どれくらい食欲や食べやすさが変わるのかなどを学んでみたかったため。食べられないと判断されてしまう人が、本当に食べられるのではないかと、考えていきたくったので。

家族の者がアルツハイマーで、飲み込みが悪く、自己流で行っていたので、勉強になればと思い参加しました。

食べられない患者さんを目の前にして、ST や Ns がいないと状況を改善できないというのでは、良くないと思い参加しました。

摂食嚥下の基本を学び、職場で活かせるようにする。

父が誤嚥性肺炎で入院している（4回目）NG チューブで人工栄養中、認知症あり、父には間に合わないかもしれないが、在宅患者のために役立てたいから。

実技での知識を広げようと思ったから。

いかに安全に口から食べさせられるか、その解決に役立つと思った。

評価や、介助方法の正しい知識を学びたかったため。

利用者又は患者様が、安全に美味しく食べられるよう 13 項目の評価から課題点を見つけ、それをサポートするにはどうしたら良いか学びたい。

日頃接しているのが、健常な小児が多いため。

昨年口腔ケア研究会で小山先生の講演をお聞きして、実技の機会が今回あるというので、是非もっと深く知りたと思いました。

NST に所属しており、口から食べることを目標とした取り組みをしているため、今回の研修で新しい知識や技術を学び、病院全体

で共有していきたいと考えたため。

小山珠美先生のKT バランスチャートについて、実践セミナーについて学びたいと思った。

NST 回診に役立てたい。

子供の食事介助をしなければならないので、何もわからないから勉強したかった。

実際の現場で正しく食事介助やスクリーニングが、行えるように学びたかった。食べるという行為の根本を見直すため。

院内で研修があり、さらなる技術を習得して、色々なケースに対応できるようになりたいと思いました。

小山先生の講演を聞いたり、本を読んだりして、実技を学びたいと思いました。

現場で（在宅）VE 検査に同行する為、食事の姿勢や、食形態の指導をする場面が多々あり、家族や施設職員の方とバランスチャートを共有し、活用できるのでは？と思ったから。

施設で口腔ケアと経口維持加算で利用者様に関わらせて頂いている上で、知識不足と経験が少なく日々悩んでいます。

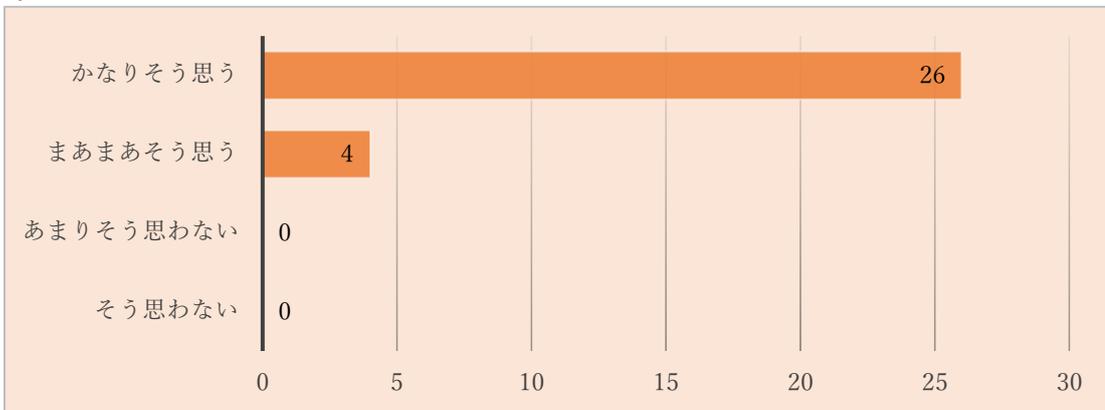
“口から食べる”ということを知りたいと思い参加させて頂きました。

KT バランスチャートの活用を知る事からの個々のケア支援を行うようになる。今の自分に今、ケア支援している事への自信をつけるため。

NST 専任ナースとして食事介助方法などを教えてもらうため。

院内での他職種との連携に役立つと考え参加しました。

### Q3.本日の実践セミナーの内容は、ご自身の口から食べる技術に関するスキルアップにつながったと思いますか。



#### 【理由】

実践する事で、自分なりに納得できる事が沢山あった。

普段は食事介助をしてもらうことなどないので、患者さんの気持ちになり、良い経験ができた。業務多忙の中での食事介助だと、姿勢・ベッドギャッジ up などきちんとできないこともあるので、今回学んだことを忘れずに実践していく。

今までやってきた事にさらに自分自身に自信がついたような気持ちになりました。伝達をしていきたいです。

口腔内だけではなく、全体を見て考えることが大切なのだと思います。

本で見るより、より具体的にケース別に理解することが出来ました。多職種の方の話も聞けたのと、体験できたのは、される立場になれてよくわかりました。

姿勢については自分なりにやっている事の確認になり、食事介助については、すぐに活用できるコツを沢山教えて頂きました。

具体的な指導が多く、相互実習することで、すごく納得して、これから食事介助への見どころがわかりました。

理論的に教えて頂き、とても分かりやすく良かったです。次は実践で活かしていきたいです。

自分のしてきたことの間違えがポイントでわかりやすかった。明日からでもすぐ実践できる。患者役をしてみたことで、どんな感覚で食事介助をされているのが理解できた。

実際にやらせてもらったので。

食事介助時の体位が重要であることが、よくわかった。

実際に患者さん役をすることで、姿勢の悪さが食欲低下につながることを実感できました。

今日、家に帰ってすぐに勉強したことを実践したいと思います。きっと今朝よりは、ずっと気持ちよく食べてもらえると思います。

姿勢をととのえることで、こんなに食べる側の気持ちも変わるのかと感じたので、細かな配慮すべき点が具体的にわかりました。

ポジショニングの重要性を非常に感じました。口周囲の事ばかり診ていました。とても勉強になりました。

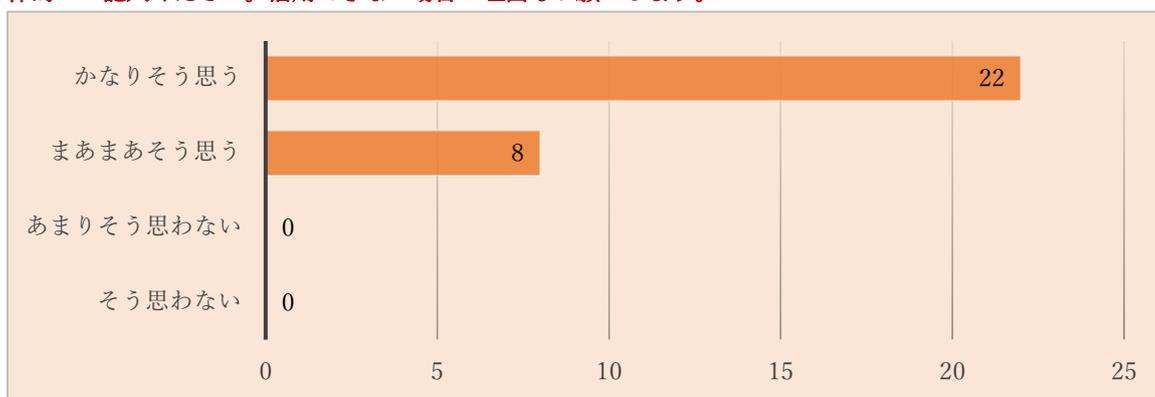
姿勢の位置をタオルで調整することで安全に安定して食べる事ができた。正しい姿勢をとる事で、食事ができる事は再度確認できた。以前に受けた研修よりも内容が充実し、楽しく受講できた。

食事姿勢を作る際のセッティングはとても重要だと実感し、実際にセッティングすることができた。

基本的な姿勢のとり方や、スプーンの挿入位置、角度、目線のとり方などが分かった。普段何気なく食べていることを患者（他者）

相手に介助しようとする、全く気が回っていないことが分かった。  
 今まで気づけなかった視点をたくさん学べたため。  
 介助手技にクセが出てしまっていることに気づくことができた。  
 実際に体験することで、曖昧だったことや知らなかったことを知り、実践につながるができる。  
 実践を通して新しい発見や、質問を通して答えをいただけたことで、自分の知識や技術のスキルアップにつながった。  
 一つ一つの動作に全て意味がある事がわかりました。姿勢の大切さ、安心して食事ができる幸せがわかりました。  
 食べさせ方や患者さんから見ての線についてなど、参考になりました。  
 姿勢をよくするためのポジショニングの方法と介助方を学べた。  
 タオルのみでシーティングができ、安定した摂食嚥下を体験できたため。  
 食べるためには体位や五感の刺激が大事と理解した。  
 落とし込みきれていない所もあり、実践で試しながら身に付けていくと思った。  
 なかなか実践は難しかったが、コツ（おさえるべきポイント）はとてもよくわかりました。  
 基本姿勢、顎の位置や目線、ベッド up の角度など、基本的なことが学習できました。

**Q4.本日の実践セミナーは、今後の実践の場面で活用できると思いますか。活用できる場合はどんな場面で活用できるか具体的に記入ください。活用できない場合の理由もお願いします。**



**【理由】**

経口訓練が開始になる患者さんに演習で学んだことが実践できると思います。  
 病院施設などの食事介助？で思うことが多々あり、介護士さんの薬剤講習も機会あるので、そのような時に「気づき」となるように働きかけていきたいです。  
 病棟での広まりや、リハビリ内での広まりにつながりそう。  
 病棟での日常、NST 介入時。  
 職員に対して、食事介助技術向上に活用させていただきたい。院内での勉強会等で行いたい。  
 色々な疾患を持つ利用者に対して工夫していきたい。  
 歯科衛生士としてよりも、円背の 89 才の母親（普通食、自立）がいるので、母に安心しておいしく食べられるようにしたいです。  
 食事のポジショニングや食事介助の方法など、職場で毎日行っていることのため、患者さんの観察を通して考え実践していきたい。  
 病棟での食事介助やまた、スタッフへの指導に活用したい。在宅に退院される方やその家族への指導にも役立てたい。  
 現場での食事支援と、それに関わるスタッフへの指導。特にポジショニングができていないため、指導することで、改善を図っていきたい。  
 食事介助時の姿勢について他職種に伝え、改善につながると思った。  
 受け持ち患者さんは寝たきりであり、口腔内ケアが上手くいっていないので、ケアを行いたい。また、右麻痺の患者さんが左手で食事をしているが、上手く行えていないので、明日から介助方法を実践していきたい。  
 普段の診療で使おうと思います。  
 気になる患者さんがいたら、介助方法、姿勢などを含めてチェックを個人的にできるかと思いました。経験を積み重ねて、周囲に伝えていけそうな気がしました。  
 すぐ自宅で。  
 食事の場面で姿勢がくずれている患者さんに対して、正しい姿勢に直せるように活用していきたいです。クッションやタオルなど、

数が限られる中でどこまでできるかは、今後の課題だと思います。

食事時のベッド上車椅子乗車時のポジショニング。

食事介助をする時に活用できると思いました。

食事介助が必要な方が多いため実践したい。今まで介助をしていて、何となくおかしいと感じていたことを修正できる。

現在食べられる能力があるのに食べようとしない患者さんが居ます。その方にポジショニングと環境調整を提案していきたいと思っています。

私の関わる所はディサービスで、ポジショニング作りが上手く伝えてやってもらえるか不安。

口腔ケアで水で洗い流す技術を、うがいが困難な方にすぐ行ってみようと思います。食べさせ方はもちろんですが、歯科衛生士が、職員に口腔ケアを上手く伝えていくことを、しっかりやっていきたいと思っています。

吸引を使用せず、口腔内を洗浄する方法は、すぐにも活用したいと思っています。

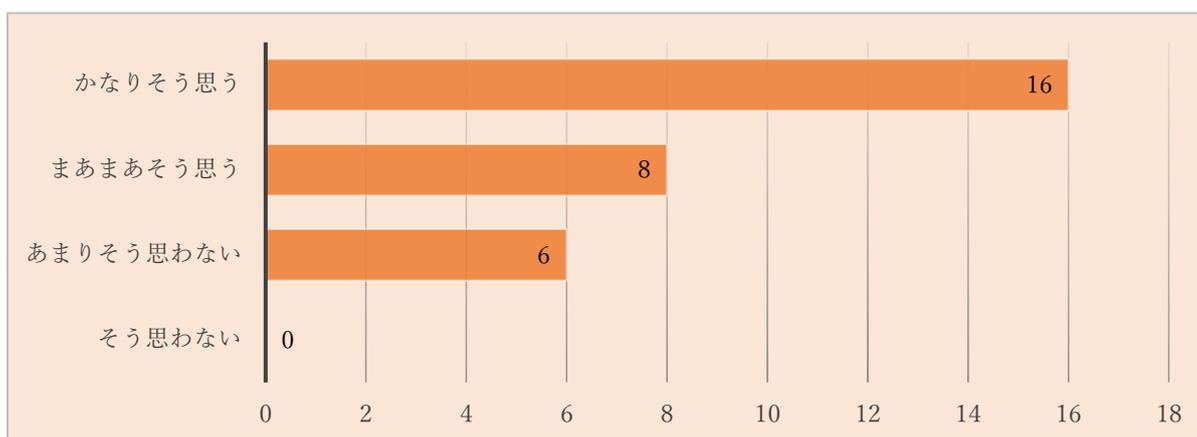
まず、環境作りをしっかりと行っていきたいと思っています。食事時に対応していきたい。利用者個々の体勢を整え作って行くこと。

私の病棟は、全介助の患者さんが多いので活用できます。患者さんにとって、楽な姿勢で美味しく食事の時間を過ごしてもらえるよう活用していきます。

食事介助は行ってないので、あまり活用する場面はないかと思うが、口腔ケア時の姿勢などは活用していきたい。

口腔ケアをする際の洗浄方法を今後活用したいと思っています。

**Q5.本日の実技セミナーのような研修をご自身の病院、施設、地域で自ら企画して行おうと思いますか。1つ○をつけ、あれば具体的にご記入ください。**



#### 【理由】

他職種連携のきっかけにしたい。

今回のセミナーに参加し、病院でも伝達する機会をもうけてもらえるので、全スタッフにベッドの角度・姿勢・肘の高さ・隙間がないようにバスタオルなどを使用することを伝えていこうと思います。とても勉強になったセミナーでした。ありがとうございました。クルリーナの使用方法もスタッフに伝えていきます。

バランスチャートの活用からの利用者個々の支援を行っていく事からが必要なのかな？と思いました。

参加者の中に自分が行っている管理栄養士さんと介護士さんが来ているので、一緒に考えていきたいと思っています。

多職種連携ができるような職場にしていきたいんです。

とても良いことだが、病院では難しそうです。今日はありがとうございました。また機会があったら参加したいと思っています。

伝達講習を行う予定です。

研修参加条件が、院内での伝達講習であった。看護師だけでなく、看護補助員の方にもスキルを身に付けてほしい。

まずは、自分自身の理解を深めること、同じ想いを持ってくれる仲間を増やすことから始めたいと思います。

まず友達の家族の為に友達に今日の実習のことを伝えたいと思います。

今の時点では、自分の実技が乏しいので、患者さんに対応してみても実感としてつかめたりしたうえで、やれたら良いと考えています。

麻痺の患者さんの介助方法を病棟で伝えていきたい。KT バランスチャートを活用してみたい。リハビリと協力して内容を伝えて

いきたい。

病院全体の周知をするために、研修などが計画できればと思いました。

本日の技術を自分に定着させてから、研修につなげていきたいと思う。

NSTのメンバーとして活動しているため、勉強会などで行っていきたい。

今回習得できたことをNSTの勉強会で病院全体で広めていきたい。

職場では、なかなか難しい部署かと思いますが。

園内研修で伝達していけたらと思います。

行えれば理想だが。

落とし込みきれてない部分もあり、人に教えるには早いため。

渋川摂食嚥下研究会、在宅ケアネット渋川でのセミナー、講演をお願いしたいです。

誤嚥性肺炎を予防するため、口腔ケアの大切さや食事開始となる時の嚥下評価、食事時の姿勢、体位保清を研修を行い全体に発信していこうと思います。

## \* 演 習 風 景 \*



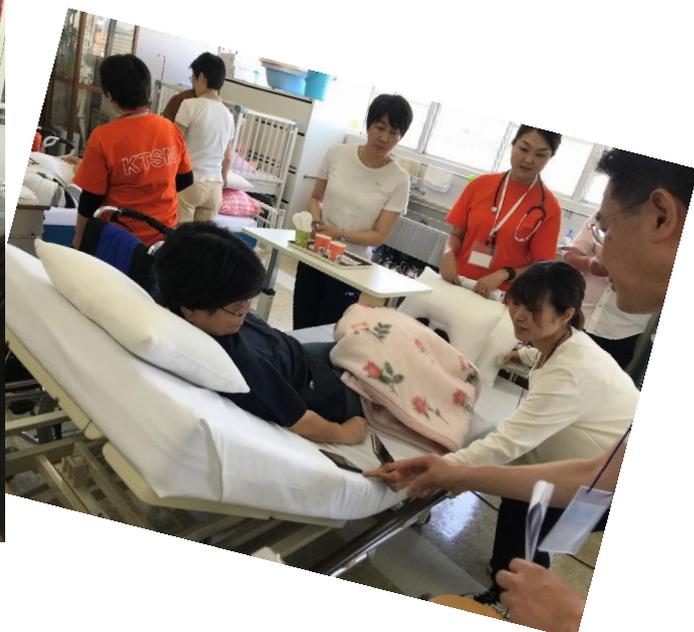
1グループ





4 グループ





5 グループ





❖ 認定食事サポーターになって「食べたい」を支えます❖